

<実践報告>

保育士育成のための学外コンサート活動の試み②

—高齢者を主対象として—

平松 喜代江 田中 雅章 桂山 たかみ

本研究は、保育士養成校における専門ゼミナール地域連携プログラムでの実践活動を通して、地域の対象者別に適したコンサート活動の成果を検証することを目的とした。くわえて、コンサート活動の実践によって、参加学生の楽器演奏の実践力および保育者としての資質向上を目指した。

実践活動は、三重県四日市市にあるBデイサービスセンターにて行った。対象は、Bデイサービスセンターを利用する高齢者とした。調査方法は、学生によるコンサートを30分行い、コンサート終了後に参加者へアンケート用紙を配布し任意にて回答を得た。調査結果では、参加のきっかけは偶発的な参加が多かったものの、高齢者に楽しんでもらえるように、選曲を工夫したことによって、高齢者の約8割の方から高評価を得られた。しかし、職員からの回答では、特にコンサートのプログラムに関しての評価が四散する結果となった。このことから、コンサート企画側が高齢者に提供したい楽曲と、職員側が高齢者に提供を希望した楽曲には違いがあったことが読み取れた。また、このコンサート活動を通して、学生は自分自身のことだけでなく、集団の中の自分の役割を考え実践できるように成長していく姿をみることができた。

キーワード コンサート、演奏活動、高齢者、地域連携、保育の資質向上

1. はじめに

2019年総人口に占める65歳以上の人口割合（高齢化率）は28.0%、75歳以上の人口は65歳～74歳人口を上回る1,798万人となり、総人口に占める割合は14.2%となった。2065年には約2.6人に1人が65歳以上、約3.9人に1人が75歳以上になると推計されている(高齢社会白書,2019)。このような日本の状況において、現在注目されているのが「幼老複合型施設」である。幼老複合型施設とは、保育園や学童保育などの子ども用の施設と、グループホームや養護老人ホームなどの高齢者施設を合築、あるいは併設した施設である。保育園とグループホーム、児童館と高齢者福祉センターなど、さまざまな組み合わせによる多様な幼老複合型施設が存在している。幼老複合型施設のように、子どもと高齢者が日常的に交流する場所では、高齢者の表情が豊かになったり、子どもが積極的になったりする様

子が見られる。また、人材確保の面から事業所にも大きなメリットがあると考えられる。現在、働きたくても働けない子育て世代と介護人材の不足に悩む事業者にとって、幼老複合型施設は互いの利害が一致する施設なのである。子どもと高齢者の双方だけでなく、事業所にも大きなメリットがあるため、幼老複合型施設は、今後いっそう増えてくる可能性がある。このような社会の変化に伴い、保育者は子どもとの関りだけでなく、高齢者とも関わる経験が求められる。

本学の専門ゼミナールの地域連携プログラムでは学生の将来を考え、各施設で演奏活動を実践する取り組みを行うことになった。学外演奏活動の2回目にあたる今回は、Bデイサービスセンターを利用する高齢者に対してコンサートを行うことになった。本稿ではこの様な取り組みを行う学生の成果を評価したいと考え、コンサート参加者にアンケート調査を実施した。今後のコンサート活動に生かせるように参加者から得られたアンケート結果を分析し、さらにこの分析結果を考察した。

2. 目的

本研究は、専門ゼミナール地域連携プログラムにおける実践活動を通して、地域の対象者別に適したコンサート活動の成果を検証することを目的とする。さらに、コンサート活動の実践によって、参加学生の楽器演奏の実践力および保育者としての資質向上を目指す。

3. 方法

(1) 実践学生の属性

A短期大学幼児保育学科、2年次専門ゼミナール地域連携プログラムを受講の学生20名(男性3名、女性17名)を実践学生とする。

(2) 実践活動の時期

2019年11月13日、10時30分から30分間実施した。

(3) 実践場所

三重県四日市市、Bデイサービスセンターにて実践を行った。

(4) 調査対象者

Bデイサービスセンターを利用する高齢者を対象とした。

(5) 実践内容(コンサート)

実践内容を表1に示した。有志による演奏「愛の挨拶」¹1曲を実施した。Cゼミ発表による「道化師のギャロップ」²の演奏を実施した。Dゼミ発表による「情熱大陸」³の演奏

¹ 愛の挨拶 作品 12 エドワード・エルガー

² 組曲「道化師」作品 26 より第2曲「ギャロップ(道化師のギャロップ)」ドミトリー・カバレフスキー

³ 情熱大陸 葉加瀬太郎

を実施した。Eゼミ発表による「天国と地獄」⁴の演奏を実施した。その後、全学生による日本の曲メドレーを演奏し、手作り歌詞カードを用いて一緒に歌った。Dゼミによる「365歩のマーチ」「ふるさと」の演奏を実施した。最後に、全学生による「パプリカ」の演奏と歌、ダンスを実施した。アンコールとして、全学生によるサザエさんエンディング曲「サザエさん一家」の演奏と歌の披露をした。

表1 コンサート内容

発表者	発表内容	使用楽器
有志	愛の挨拶 ¹	マリンバ、ピアノ、クラリネット
Cゼミ	道化師のギャロップ ²	マリンバ、ピアノ、鉄琴、木琴
Dゼミ	情熱大陸 ³	マリンバ、ピアノ、鉄琴、シンバル
Eゼミ	天国と地獄 ⁴	マリンバ、ピアノ、鉄琴、木琴
全員	日本の曲メドレー	歌詞カード紙芝居
	①赤とんぼ	マリンバ、ピアノ、うた
	②どんぐりころころ	マリンバ、ピアノ、うた、ダンス
	③虫の声	マリンバ、ピアノ、うた、トライアングル、鈴、ギロ
	④たき火	マリンバ、ピアノ、うた
Dゼミ	ふるさと	マリンバ、ミュージックベル
	365歩のマーチ	マリンバ、鈴、うた
全員	パプリカ	マリンバ、ピアノ、カホン、うた、ダンス
全員	サザエさん一家	マリンバ、クラリネット、鍋、お玉杓子、うた

(6) 調査手順

学生によるコンサート(表1)を30分行い、コンサート終了後に参加者へアンケート用紙(表2)を配布し任意にて回答を得た。調査は無記名の自己記述式とし、設問は選択式と自由記述式を設けた。回答後のアンケート用紙は、Bデイサービスセンター職員による回収を依頼した。

(7) 調査内容

アンケート調査内容は、コンサート内容に関する質問10項目および属性に関する質問3項目の計13項目を設定した(表2)。

表2 アンケート調査内容

※ 該当の回答欄に、○印を付けてください。

①ご参加のきっかけ	1. 病院スタッフから 2. ポスターやチラシ 3. 知り合いから 4. その他()
②コンサート時間の長さ	1. ちょうど良かった 2. (分ぐらいが良い)
③コンサートの雰囲気	1. 良かった 2. やや良かった 3. どちらでもない 4. やや悪かった 5. 悪かった
④コンサートのプログラム(曲目)	1. 良かった 2. やや良かった 3. どちらでもない 4. やや悪かった 5. 悪かった
⑤学生の動きや合唱	1. 良かった 2. やや良かった 3. どちらでもない 4. やや悪かった 5. 悪かった

⁴ 喜歌劇「天国と地獄」より序曲 ジャック・オフエンバック

⑥歌いやすさ	1. 良かった 2. やや良かった 3. どちらでもない 4. やや悪かった 5. 悪かった
⑦壁に張った歌詞は役に立った	1. 役に立った 2. やや役に立った 3. どちらでもない 4. やや役に立たなかった 5. 役に立たなかった
⑧壁に張った歌詞の見やすさ	1. 見やすかった 2. やや見やすかった 3. どちらでもない 4. やや見にくかった 5. 見にくかった
⑨コンサートの満足度	1. 満足だった 2. やや満足だった 3. どちらでもない 4. やや不満だった 5. 不満だった
⑩次回の参加	1. 参加すると思う 2. 都合が合えば参加する 3. どちらでもない 4. 参加しないと思う

性別	1. 男性 2. 女性
年齢	1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70代以上
区分	1. 職員 2. 利用者

その他ご意見がございましたら、自由にお書きください

--

4. 結果と考察

(1) 高齢者に適したコンサート活動について

コンサート参加者のうち28名から回答を得ることができた。その結果を表3に示した。

表3 アンケート調査結果

基本属性

質問内容	回答	比率(%)
①回答者の性別	1. 男性	19.2
	2. 女性	80.8
②回答者の年齢層	1. 10代	3.7
	2. 20代	3.7
	3. 30代	7.4
	4. 40代	11.1
	5. 50代	7.4
	6. 60代	14.8
	7. 70代以上	51.9
③区分	1. 職員	38.5
	2. 利用者	61.5

コンサート内容

質問内容	回答	全体の比率 (%)	利用者の比率 (%)	職員の比率 (%)
①ご参加のきっかけ	1. スタッフから	25.9	5.6	66.7
	2. ポスターやチラシ	0	0	0
	3. 知り合いから	48.1	55.6	33.3
	4. その他	25.9	38.9	0
②コンサート時間の長さ	1. ちょうど良かった	100	100	100
	2. (分ぐらいが良い)	0	0	0
③コンサートの雰囲気	1. 良かった	63.0	83.3	22.2
	2. やや良かった	33.3	11.1	77.8

	3. どちらでもない	3.7	5.6	0
	4. やや悪かった	0	0	0
	5. 悪かった	0	0	0
④コンサートのプログラム (曲目)	1. 良かった	66.7	88.9	22.2
	2. やや良かった	25.9	11.1	55.6
	3. どちらでもない	7.4	0	22.2
	4. やや悪かった	0	0	0
	5. 悪かった	0	0	0
⑤学生の動きや合唱	1. 良かった	59.3	83.3	11.1
	2. やや良かった	25.9	16.7	44.4
	3. どちらでもない	3.7	0	11.1
	4. やや悪かった	11.1	0	33.3
	5. 悪かった	0	0	0
⑥歌いやすさ	1. 良かった	65.4	83.3	25.0
	2. やや良かった	15.4	5.6	37.5
	3. どちらでもない	7.7	5.6	12.5
	4. やや悪かった	7.7	5.6	12.5
	5. 悪かった	3.8	0	12.5
⑦壁に張った歌詞は役に立った	1. 役に立った	68.0	66.7	71.4
	2. やや役に立った	20	27.8	0
	3. どちらでもない	8.0	0	28.6
	4. やや役に立たなかった	4.0	5.6	0
	5. 役に立たなかった	0	0	0
⑧壁に張った歌詞の見やすさ	1. 見やすかった	60.0	61.1	57.1
	2. やや見やすかった	28.0	33.3	14.3
	3. どちらでもない	0	0	0
	4. やや見にくかった	12.0	5.6	28.6
	5. 見にくかった	0	0	0
⑨コンサートの満足度	1. 満足だった	72.0	88.9	28.6
	2. やや満足だった	24.0	11.1	57.1
	3. どちらでもない	4.0	0	14.3
	4. やや不満だった	0	0	0
	5. 不満だった	0	0	0
⑩次回の参加	1. 参加すると思う	91.3	94.1	83.3
	2. 都合が合えば参加する	8.7	5.9	16.7
	3. どちらでもない	0	0	0
	4. 参加しないと思う	0	0	0

基本属性

①回答者の性別

男性19.2%、女性80.8%と、女性の回答者が多数であった。

②回答者の年齢層

10代3.7%、20代3.7%、30代7.4%、40代11.1%、50代7.4%、60代14.8%、70代以上51.9%であった。このうち、60代14.8%と70代以上51.9%は利用者のみの年齢である。

③回答者の区分

職員は38.5%、利用者は61.5%であった。

コンサートの内容

① 参加のきっかけ

全体では、「スタッフから」25.9%、「ポスターやチラシ」0%、「知り合いから」48.1%、「その他」25.9%であった。利用者のみの回答では、「スタッフから」5.6%、「ポスターやチラシ」0%、「知り合いから」55.6%、「その他」38.9%であった。職員のみの回答では、「スタッフから」66.7%、「ポスターやチラシ」0%、「知り合いから」33.3%、「その他」0%であった。参加のきっかけについて、「知り合いから」「スタッフから」知った場合が多数あり、デイサービスセンタースタッフからの情報発信が主であったことが推測された。また、利用者の回答において約3割を占めていた「その他」の詳細は、「コンサート開催日が利用日と重なったため」という偶発的な参加であったことがわかった。

② コンサートの時間の長さ

全体、利用者のみ、職員のみいずれも、「ちょうど良かった」100%と満足な結果となった。対象が高齢者であることを考え、座位を保ちつつリラックスして参加してもらうように、コンサート時間を30分を目安としたことが満足な結果につながったと考えられた。

③ コンサートの雰囲気

全体では、「良かった」63.0%、「やや良かった」33.3%、「どちらでもない」3.7%、「やや悪かった」0%、「悪かった」0%であった。すべての参加者におおよそ満足してもらえる雰囲気がつくれた。利用者のみの回答では、「良かった」83.3%、「やや良かった」11.1%、「どちらでもない」5.6%、「やや悪かった」0%、「悪かった」0%であった。職員のみ回答では、「良かった」22.2%、「やや良かった」77.8%、「どちらでもない」0%、「やや悪かった」0%、「悪かった」0%であった。コンサートの前半に有名なクラシックナンバーを入れ、音楽を傾聴する環境づくりに努めた。これによってコンサートの雰囲気をつくることができたと思われる。後半には、高齢者の方にとっては懐かしく口ずさむことができる日本の曲を4曲メドレーで演奏した。その際、各曲のイメージを膨らませるために、歌詞カードを絵付きのポスター形式にし、演奏の前に学生の朗読によって歌詞を紹介し雰囲気づくりに工夫を凝らした。これらの取り組みによって、特に利用者の8割の方から「良かった」との回答が得られたと推測できた。

④ コンサートのプログラム（曲目）

全体では、「良かった」66.7%、「やや良かった」25.9%、「どちらでもない」7.4%、「やや悪かった」0%、「悪かった」0%であった。利用者のみの回答では、「良かった」88.9%、「やや良かった」11.1%、「どちらでもない」0%、「やや悪かった」0%、「悪かった」0%であった。職員のみ回答では、「良かった」22.2%、「やや良かった」55.6%、「どちらでもない」22.2%、「やや悪かった」0%、「悪かった」0%であった。曲目については、上記の「コンサートの雰囲気」でも述べたが、コンサートの前半には有

名なクラシック曲、中盤には懐かしい日本の曲メドレー、後半には体を動かして一緒に楽しめるポピュラーな曲を選曲した。この選曲によって利用者の方には、コンサートに飽きることなく楽しんでもらえたのではないかと考える。しかし、職員の方のみの回答では、「良かった」22.2%、「やや良かった」55.6%、「どちらでもない」22.2%の結果が得られた。したがって、コンサート企画側が高齢者に提供したい楽曲と、職員側が高齢者に提供を希望した楽曲には違いがあったことが読み取れた。この差異については、今後の課題とした。

⑤ 実践した学生の動きや合唱

全体では、「良かった」59.3%、「やや良かった」25.9%、「どちらでもない」3.7%、「やや悪かった」11.1%、「悪かった」0%であった。利用者のみの回答では、「良かった」83.3%、「やや良かった」16.7%、「どちらでもない」0%、「やや悪かった」0%、「悪かった」0%であった。職員の方のみの回答では、「良かった」11.1%、「やや良かった」44.4%、「どちらでもない」11.1%、「やや悪かった」33.3%、「悪かった」0%であった。この結果から、学生の動きなどについて、利用者と職員では評価に大きな相違がみられた。特に職員の評価は、「どちらでもない」「やや悪かった」合わせて44.4%と約半数が低評価であった。具体的な評価は、「参加者の反応をしっかりとらえてペースを合わせるなどの工夫をすると良いと思う」「学生の動きはもう少しハキハキとした方が良い」「高齢者が好むプログラムや対象の方が生きてこられた時代背景も取り入れて工夫すると良い」「ダンスの時は恥ずかしがらずに指先まできちんとおぼして」等の意見があった。現場の専門職からの率直な意見であるため真摯に受け止めて、今後の指導に生かしていきたい。

⑥ 歌いやすさ

全体では、「良かった」65.4%、「やや良かった」15.4%、「どちらでもない」7.7%、「やや悪かった」7.7%、「悪かった」3.8%であった。利用者のみの回答では、「良かった」83.3%、「やや良かった」5.6%、「どちらでもない」5.6%、「やや悪かった」5.6%、「悪かった」0%であった。職員の方のみの回答では、「良かった」25.0%、「やや良かった」37.5%、「どちらでもない」12.5%、「やや悪かった」12.5%、「悪かった」12.5%であった。全体の評価をみても、「やや悪かった」「悪かった」合わせて11.5%と1割が低評価となっている。特に職員の評価では、「やや悪かった」「悪かった」合わせて25.0%と1/4の職員が低評価であった。具体的な評価は、「歌のキーが高く同じように歌えなかった」「歌える歌がもっとあれば良かった」等であった。学生が大きな声でリードすることも、高齢者にとっての歌いやすさにつながることがわかった。また、高齢者が歌いやすいように日本の曲を選曲して工夫を凝らしたつもりではあったが、職員の立場からみて歌いやすくはなかったことが捉えられた。

⑦ 壁に張った歌詞は役に立った

全体では、「役に立った」68.0%、「やや役に立った」20.0%、「どちらでもない」

8.0%、「やや役に立たなかった」4.0%、「役に立たなかった」0%であった。利用者のみの回答では、「役に立った」66.7%、「やや役に立った」27.8%、「どちらでもない」0%、「やや役に立たなかった」5.6%、「役に立たなかった」0%であった。職員のみ回答では、「役に立った」71.4%、「やや役に立った」0%、「どちらでもない」28.6%、「やや役に立たなかった」0%、「役に立たなかった」0%であった。この質問は、「歌うのに役に立った」場合と、「イメージするのに役に立った」場合の二通りの捉え方が考えられた。そのため、どちらの場合を想定して回答が得られたのか不明であるが、おおよそは役に立ったと解釈できる。

⑧ 壁に張った歌詞の見やすさ

全体では、「見やすかった」60.0%、「やや見やすかった」28.0%、「どちらでもない」0%、「やや見にくかった」12.0%、「見にくかった」0%であった。利用者のみの回答では、「見やすかった」61.1%、「やや見やすかった」33.3%、「どちらでもない」0%、「やや見にくかった」5.6%、「見にくかった」0%であった。職員のみ回答では、「見やすかった」57.1%、「やや見やすかった」14.3%、「どちらでもない」0%、「やや見にくかった」28.6%、「見にくかった」0%であった。よく見えるように学生手作りの歌詞カードとその画像を大きなスクリーンに映したが、それらを正面に設置したため、角度によっては見えなかった場合も考えられた。

⑨ コンサートの満足度

全体では、「満足だった」72.0%、「やや満足だった」24.0%、「どちらでもない」4.0%、「やや不満だった」0%、「不満だった」0%であった。利用者のみの回答では、「満足だった」88.9%、「やや満足だった」11.1%、「どちらでもない」0%、「やや不満だった」0%、「不満だった」0%であった。職員のみ回答では、「満足だった」28.6%、「やや満足だった」57.1%、「どちらでもない」14.3%、「やや不満だった」0%、「不満だった」0%であった。「満足だった」「やや満足だった」の回答が得られたのは、全体96%、利用者100%、職員85.7%といずれもおおよそ満足してもらえたコンサートになったと考えた。

⑩ 次回の参加

全体では、「参加すると思う」91.3%、「都合が合えば参加する」8.7%、「どちらでもない」0%、「参加しないと思う」0%であった。利用者のみの回答では、「参加すると思う」94.1%、「都合が合えば参加する」5.9%、「どちらでもない」0%、「参加しないと思う」0%であった。職員のみ回答では、「参加すると思う」83.3%、「都合が合えば参加する」16.7%、「どちらでもない」0%、「参加しないと思う」0%であった。いずれも約9割の方々から「次回も参加すると思う」との回答が得られた。今後も、現場で参加者の方々の反応を感じながら学べる実践活動を積み重ねていきたいと考えた。

(2) コンサート活動の反省

参加学生は、コンサート終了後にコンサートの映像をみながらリフレクションシートをもとに振り返りを実施した。リフレクションシートの質問項目は表4に示した。リフレクションシートの振り返りをもとに、学生の実践力および保育者としての資質向上について述べる。

表4 リフレクションシート内容

質問内容	回答	全体の比率 (%)
①選曲や内容の企画	1. 参加した	66.7
	2. やや参加した	33.3
	3. あまり参加しなかった	0
	4. 参加しなかった	0
	5. その他	0
②準備作業や練習	1. 参加した	100
	2. やや参加した	0
	3. あまり参加しなかった	0
	4. 参加しなかった	0
	5. その他	0
③当日のセッティング	1. 参加した	83.3
	2. やや参加した	16.7
	3. あまり参加しなかった	0
	4. 参加しなかった	0
	5. その他	0
④当日の発表や協力	1. 参加した	100
	2. やや参加した	0
	3. あまり参加しなかった	0
	4. 参加しなかった	0
	5. その他	0
⑤当日の片づけ	1. 参加した	83.3
	2. やや参加した	0
	3. あまり参加しなかった	16.7
	4. 参加しなかった	0
	5. その他	0

今後の活動についての感想を書いてください

①選曲や内容の企画

「参加した」66.7%、「やや参加した」33.3%の回答が得られた。おおよそその学生が選曲等企画の段階からしっかり参加できたことがわかった。この企画に関する自由記述では、「学生みんなが高齢者の方達がどのようにしたら楽しめるか、考えられたので良かった」「ゼミのみんなで協力をして考えることができた」「皆が知っている曲を考えるのは難しかったけど頑張って考えた」「なかなか体験出来ないことができたのが楽しかった」等の記述がみられた。これらの記述から、学生が対象者のことを想像して楽しんでもらえる内容をゼミ内で協力して考えられるようになったことが捉えられた。

②準備作業や練習

「参加した」と回答した学生は100%であった。自由記述において、具体的にどのような準備や練習をしたのか実態をとらえることができた。「家で動画を見て踊りの練習をした」「司会など色々なことに積極的に動けた」「空きコマを使って自主練習をした」「ゼミのみんなで空き時間に集まって練習をした」「練習時間が少ない中しっかりとできた」等の記述がみられた。これらから、「発表に向けて個人でできること」「ゼミのみんなで協力すること」を学生自らが考え練習時間を捻出できており、学生の成長をみることができた。

③当日のセッティング

「参加した」83.3%。「やや参加した」16.7%の回答が得られた。自由記述では、「歌詞を高齢者の方にも見える位置に置くと良かった」という実施後の課題を出すことができたようになった。

④当日の発表や協力

「参加した」と回答した学生が100%であった。自由記述では、「良かった」とする内容だけでなく、「緊張しているのはわかるけど、自分がもし見る立場だったとしても当日の発表の協力としてはかけているのかもしれないと思った」と実践する立場ではなく、見る立場として自分たちの実践を振り返ることができた学生もいた。この振り返りの視点はとても大切であるし、保育の現場に出た時に大いに役立つと考えた。

⑤当日の片づけ

「参加した」83.3%、「あまり参加しなかった」16.7%の回答が得られた。多くの学生が自由記述においても、「みんなで協力して片付けができた」と記述されていた。しかし、「当日の片付け」については、「実施会場での片付け」と「実施後、短大に戻ってからの片付け」と二通りの受け止め方が見られた。「あまり参加しなかった」と回答した16.7%の自由記述には、「施設内を見学していて片付けに参加できなかった」と記述されており、意図的に片付けしなかったのではなく、コンサート終了後に行われた施設見学と重なってしまったためであったことがわかった。これらやむを得ない理由であった16.7%の学生を除くと、すべての学生が片付けに積極的に参加したことがわかった。

5. まとめ

(1) 高齢者に対するコンサート活動の成果

高齢者の方々は、学生に対して温かい眼差しで見守っていたことがアンケートの自由記述から読み取れた。具体的には、「学生の皆さんが礼儀正しく、大きくなった時からの恵まれた環境で回りの人々に気をつけて見えるのがよくわかった」「全員が参加していて良いと思った」「ニコニコと笑顔がかわいかった」「若い学生さんは心が優しくて子どもや老人にも手助けしてくれると思った」「演奏を間近で聞くことができてよかった」「日

頃は練習され皆のために楽しい時を作ってくれた」等の意見があった。

高齢者の方々がコンサートを楽しめるように、コンサート時間、選曲、曲順に配慮してプログラムの検討を行ったことが、上記のような成果として表れたのではないだろうか。さらに、高齢者が受け身になって音楽を聴いているだけではなく、一緒に楽しめるように歌える曲や体を動かせる曲を取り入れたことも成果として大きいと考える。歌詞カードの見やすさや活用方法には改善の余地はあったものの、おおよそコンサートを楽しみ満足してもらえたことによって、一定の成果を挙げられた。

(2) Bデイサービスセンターの職員からの学び

現場の職員から高齢者を楽しませるためには、どのような姿勢が必要なのかについて率直な指摘が得られた。「学生の発表時の姿勢」だけではなく、「発表の場を運営するうえでのアドバイス」などは学生が現場に出た時に必要な力になると考えられた。具体的には、「時間を予定通りにしてほしい」「施設での場合は出来るだけ予定時間内に終了してほしい」「準備の段階でもう少し段取り良く動くといい」等であった。高齢者の方の身体的な負担を考えてスケジュール設定を行うことの大切さや、準備の重要性を学んだ。

(3) 学生の実践力および保育者としての資質向上について

本研究では、専門ゼミナール活動の一環として、コンサート活動を重ねることによって「演奏活動を実践する」だけでなく「学生自身の演奏活動に取り組む姿勢」の気づきに期待したいと考えた。これらの取り組みの結果、学生個人のことでなく、集団の中の自分の役割を考え実践できるように成長していく姿をみることができた。したがって、本研究における取り組みは、学生の資質向上とともに自己のアイデンティティ獲得にも役立ったのではないかと考えた。

鈴木(2002)は、保育者の役割として、伸び伸びと音楽活動ができるように、よい環境を作り、子どもたちから自由な発想を引き出せるようにすることであると指摘している。それには、まず、保育者自身が音楽を楽しめる人間でなくてはならず、音楽を通して楽しんでもらえる体験をもっていることは、保育者に求められる大切な資質となり得る。

これまでの実践を踏まえながら、学生の実践力向上につながる取り組みを継続していきたい。

参考文献

- (1) 内閣府(2019)高齢社会白書, <https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html>
- (2) 鈴木恵津子(2002)保育士養成校における音楽教育の意義ー子どもの心身の発達と音楽とのかわりを踏まえてー.鎌倉女子大学紀要,(9),107-113.